

海洋深層水でサクラマス親魚を養成する ～親魚餌料と成長や卵質との関係～

内水面課 主任研究員 中島 一步

1 背景・ねらい

サクラマスは、富山県の内水面および沿岸漁業において重要な魚種であるが、近年の漁獲量は、沿岸では2～3トン、神通川では約1トンと低迷しており、資源の枯渇が危惧されている。そこで、当所ではサクラマス資源の維持・増大を図るため、平成7年度から海洋深層水を用いたサクラマス親魚養成技術開発に取り組んでいる。

本発表では、平成26年12月から27年10月にかけて実施したサクラマス親魚養成試験の概要について報告する。

2 成果の概要

飼育魚に給餌する餌料が、飼育成績や得られる卵の発眼率に与える影響を調査するため、オキアミ・イカナゴ混合物給餌区（以下、生餌①区、生餌②区）、高油脂配合飼料給餌区（以下、配合F区）および高蛋白配合飼料給餌区（以下、配合P区）で比較試験を実施した。

試験終了時の生餌①区および生餌②区の平均体重は、配合F区および配合P区のそれよりも有意に大きかった。一方、配合F区および配合P区の増肉費用指数（親魚を1kg増重させるのに必要な餌料費を生餌①区を100として表したもの）は、生餌①区および生餌②区の5～6割程度であった（図1）。

雌1尾あたりの平均採卵粒数は試験区間で有意な差はなかったが、配合F区および配合P区の発眼率は、生餌①および生餌②区のそれよりも高く、発眼卵生産費用指数（発眼卵1粒を生産するのに必要な餌料費を生餌①区を100として表したもの）も生餌①区の5割程度であった（図2）。生餌①区および生餌②区の発眼率は、1卵重量と負の相関があった。一方、配合F区および配合P区の発眼率は1卵重量と相関がなかった（図3）。

これらのことから、サクラマス飼育魚に給餌する餌料の種類によって、飼育成績だけでなく、得られる卵の発眼率や、親魚養成および卵生産の費用対効果も大きく変化することが示唆された。

3 成果の活用面・留意点

本研究で得られた知見は、サクラマス親魚養成技術の改善および効率化に寄与するものである。今後は、餌料の栄養成分について、より詳細な飼育試験を行う。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 内水面課
担当：中島 一步
TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

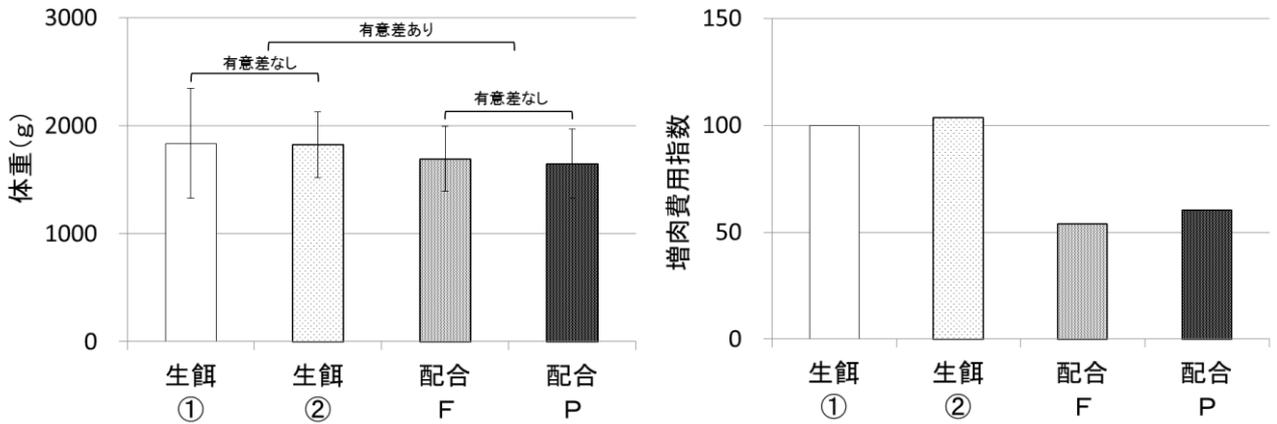


図1 試験終了時の各試験区の平均体重 (左) と増肉費用指数 (右)

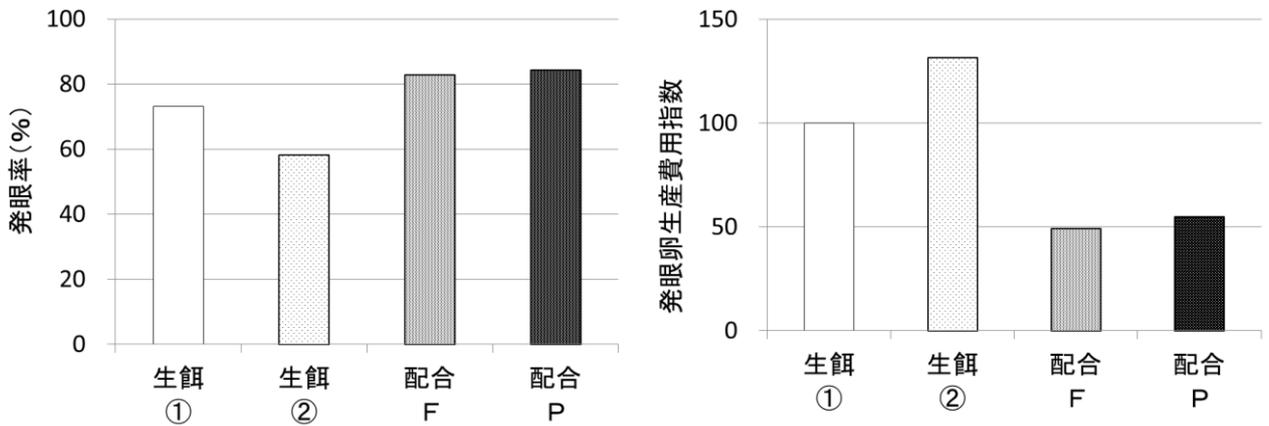


図2 各試験区の発眼率 (左) と発眼卵生産費用指数 (右)

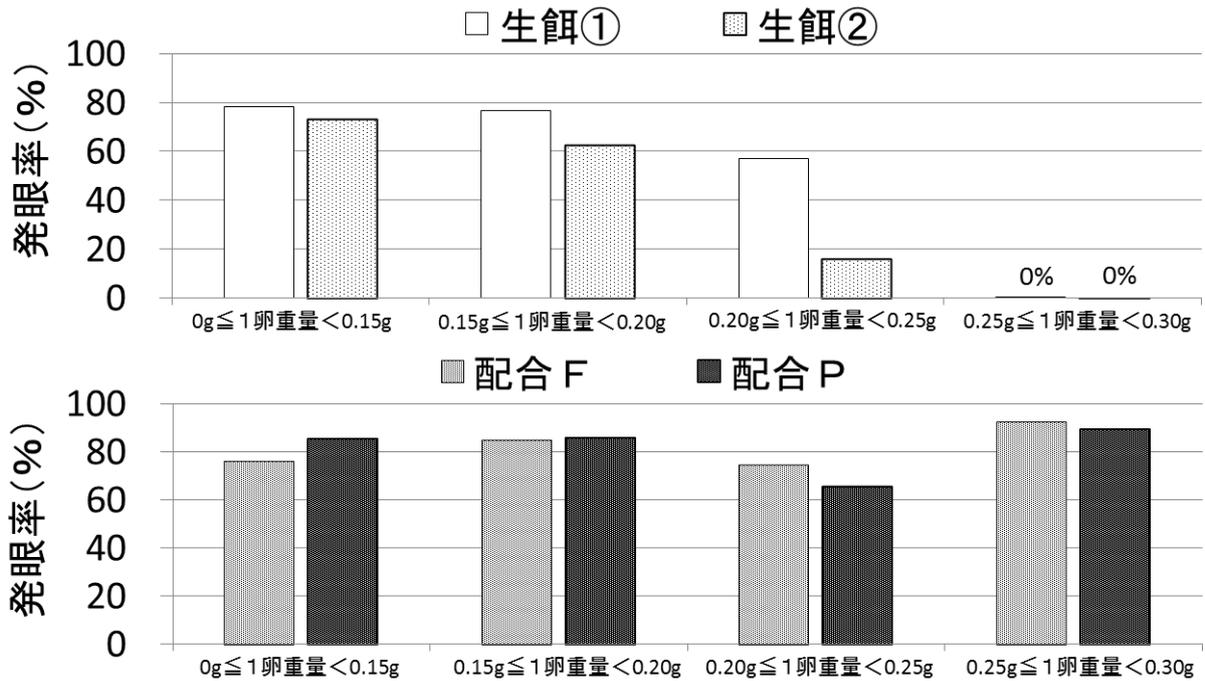


図3 各試験区の発眼率の度数分布図 (上: 生餌①区および生餌②区、下: 配合F区および配合P区)